



フランス便り

2023年11月



小林千鶴

最近少しずつ寒くなり始め街中はクリスマスの装飾が完成し始めました。今月は11月の末から始まるクリスマスマーケットについて書きたいと思います。

～ Marché de Noël ～

Marché de Noël とはそもそも何なのでしょう？アルザスのクリスマスマーケットは、ゲルマンの伝統であるクリスマス前後のフェアや市場から来ています。ストラスブールでは、中世の時代、12月6日に大聖堂の下で開催されたサンニコラの市場に起源があります。19世紀には、12月26日から開催され1月まで続いた別のストラスブールのクリスマスフェアと合併し今のクリスマスマーケットになりました。また、このマーケットでは30メートルもある大きなツリーやイルミネーションがありとても綺麗です。11月24日から始まり、12月24日の18時までやっています。



～ 出店について ～

出店は大きく分けて、飲食系、洋服やアクセサリ系、クリスマスツリーの飾り系の3種類です。また日本とは違い出店は小さな家のような形をしていて、木造になっています。ストラスブールの中心部にはほとんどの場所に出店が出ておりどこを歩いてもとても楽しいです。



飲食系では基本的に温かい物が多いです。ホットの赤ワインやシュークルート、プレッツェル、クレープ、クッキー、チョコレートが売られています。私はクレープを食べてみましたが、値段の割に中身が少ないと感じました。具材は日本ほど多くなく生地にはジャムを塗っただけの物であっても4ユーロもしました。しかし、とても寒かったので温かいクレープはとてもおいしかったです。多くの人はホットワイン

を持って出店を見ていました。洋服やアクセサリは普段買うより安い値段で売っていました。買っている人は見かけませんでしたが、帽子やマフラーも売っていたので観光客で

あれば買うのではないかなと思いました。クリスマスツリーの飾り系では小さい物から大きい物まで様々な種類のものが売っていました。また、この時期のみ開店する飾りのお店があり、そこで飾りを買おうと沢山の人が並んでいました。フランスでは、クリスマスツリーを一本買って家に飾る人が多いようで近くのスーパーには木が沢山売っていました。

～ 街中の雰囲気 ～

街中ではこの写真のように、お店にも飾りつけがされています。主に1つ1つの窓に木がつるしてあり、ぬいぐるみがあるのが王道だと思います。飾りつけがされている建物は飲食店が多いです。このような飾り付け以外にも、イルミネーションが多くあります。日本でもよく見かけるようなシンプルな物から、星や酒樽などの形をした物もあります。中心街はもちろんですが、住宅街でもイルミネーションをしている場所があります。



～ 12月6日 ～

フランスのアルザス地方、ロレーヌ地方では12月6日はLa Saint-Nicolasと呼ばれるイベントがあります。この日は学校や家でManeleと呼ばれる人型のパンを食べる週間があります。昔、三人の子どもが食べ物を探して歩いていたところ一軒の家を見つけます。そこは肉屋で子ども達は家に入ると子ども達は塩漬けにされてしまいます。その後訪れたSaint-Nicolasという司教が子ども達を復活させたといわれています。その後Saint-Nicolasは子どもの守護聖人として毎年12月6日に学校を訪れます。Maneleというパンはその子ども達に見立てて人型になっています。



～ まとめ ～

Marché de Noëlには地元の人より観光客の方が多く来ているのかなと感じました。日本の縁日などと違い、出店の種類が多くなく同じようなお店がいくつも並んでいました。また、子ども重視ではなく大人重視で、金魚すくいや射的といった様な遊びはなく、飲食物の種類も少なかったのが印象的でした。飲み物に関しては、ホットワインかホットアップルジュースしか見かけなかったです。しかし、イルミネーションやクリスマスツリーはとても美しく雪の中イルミネーションを見るのはとても綺麗だと思いました。私は夕食の関係上あまり夜遅くまでクリスマスマーケットを見ることは出来なかったのですが、また来ることが出来ればゆっくり見たいなと思います。